

-☆-H.A.L.'s Circle Review-☆-5000 号、おめでとうございます！

川又さま、H.A.L.'s サークルの皆さま

ついに 5000 号ですね。26 年にわたって発行を続けてこられたことに、心から驚嘆しています。5000 号ものメルマガを執筆するために川又さんが注いでこられた情熱と時間を思うと、「頭が下がる」だけでは言い表せないほどのご尽力だったと感じます。

26 年前というと、私がちょうど ESOTERIC 製品の設計を始めた頃で、ハイエンドオーディオについて、右も左も分からない状態でした。ある時、製品の設計が大詰めを迎え、最後に川又さんのご意見を伺うことになり、師匠の大間知に連れられて、恐る恐る 5555 の 7F へお邪魔しました。雑誌でしか見たことのないオーディオ機器が所狭しと並ぶ光景に、圧倒されたことをよく覚えています。試聴では、川又さんが聴き比べで大切にされていることを分かりやすく解説してくださり、「ここが一番分かりやすいから、この席で聴いてごらん」と、あの真ん中の席で聴かせていただきました。まさに「川又オーディオ塾」のような体験で、ほどなく私も H.A.L.'s サークルに入会し、メルマガの読者となりました。

その後、新しい製品が出るたびに川又さんの試聴に同席させていただきました。そこで行われる実験的な試聴は、メーカーの設計者が製品開発で部品を替えながら行う試験試聴に良く似ていて、疑問点や気になる点を解明するため、設定やセッティングを何度も変えて聴き比べる、とんでもなく手間と根気を要する作業でした。そして、それだけでも相当な作業量ですが、川又さんはさらに、耳で捉えた音楽を言葉に置き換え、メルマガの読者へ分かりやすく伝えなければなりません。そこには感性と文才の両方が求められます。メルマガの音質を表す比喻などは、実際に体感した音を思い出しながら読むと、あまりにも的確で、思わずニヤリとしてしまうことがたびたびありました。

改めまして、5000 号の達成を心よりお祝い申し上げます。

これからも、川又さんという高いハードルを越えられるものづくりを目指し、私たちも一層精進してまいります。今後とも ESOTERIC 製品を厳しい耳で吟味していただき、ハイエンドオーディオの伝道師として、H.A.L.'s サークルの皆さまにオーディオの感動を届けていただければ幸いです。

ティアック株式会社 プレミアムオーディオ事業部長
加藤徹也